

【院長挨拶】

新型コロナウイルス感染症の第2波は、国内では7月下旬～8月上旬に陽性者のピークを迎え、その後はゆっくりと下降曲線を辿っているようです。第1波のように強い自粛がされなかった分、すなわち感染と社会経済の両立を目指していることから、陽性者が0になることは難しそうで、このままただらとした感染者の発生が続くような雲行きです。加えてこれから季節性のインフルエンザ流行期に入り、両者の重複流行が社会全体にどのような影響を及ぼすのか全く予断を許さない状況です。



まさに「コロナのある世界」を生きていかねばなりません。今後は高齢者・基礎疾患を持つ人を入院対象とし、軽症・無症状者は自宅待機となりそうで、経験値を積みながら対応していく必要があります。

8月から医療安全管理室に石津真由美室長が着任されました。院内の医療安全に関する業務とともに地域との連携にも継続して携わって頂きます。

9月から呼吸器内科に川本珠貴先生を迎えました。これまで非常勤の外来担当でしたが、常勤3人体制となり高齢化に伴い増えて来る呼吸器疾患に対処していきます。地域の皆さん方にもどうか宜しくお願い致します。

寺柿 政和

【呼吸器内科 医師就任のあいさつ】

令和2年4月より当院呼吸器内科の医員として着任いたしました杉谷新（すぎたにあらた）と申します。私は平成24年に大阪市立大学医学部を卒業後、大阪市立大学医学部呼吸器内科に入局し、関連病院で診療に従事して参りました。当科では高齢化社会に伴う呼吸器疾患の需要にこたえるべく、他科の協力も得て、急性・慢性呼吸不全、COPD増悪、気管支喘息発作、各種呼吸器感染症、間質性肺炎、肺癌に対する化学療法について診療を行っています。当科の運営につきまして、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



呼吸器内科 杉谷医師

このたび呼吸器内科の医員として着任いたしました川本珠貴と申します。平成22年に大阪市立大学を卒業後、大阪市立大学呼吸器内科に入局し、関連病院や同大学で診療に従事して参りました。今回、9月から東住吉森本病院で勤務させて頂くこととなりました。

当科で扱う疾患は多岐にわたり、COPD、気管支喘息、呼吸器感染症、間質性肺炎や肺癌に対する化学療法に加えて、膿胸や気胸、肺癌の手術適応症例につきましては呼吸器外科と連携をとりながら診療にあたっております。地域医療の一助となりますよう尽力させて頂きますので、よろしくお願い致します。



呼吸器内科 川本医師

膠芽腫は原発性の悪性脳腫瘍の中では最も多く悪性度の高い腫瘍ですが、治療法の発達により生存成績は改善してきています。手術で可能な限り摘出することが重要と言われており、当科でも蛍光ガイド下腫瘍摘出やナビゲーションシステムの導入等手術成績の向上に努めてきました。

手術後に放射線・薬物療法を適切に行うことが重要ですが、これらの治療にさらに腫瘍治療電場療法 (Tumor Treating Fields: TTF) を加えることで、生存期間を延長できることが海外で示されています¹。日本でも2017年12月から、TTFieldsを用いた治療が保険適用となり、当院でも2020年9月からTTFieldsを導入しました。

写真はTTFieldsの機器(右)と使用時の様子(左)で、頭皮に電極シートを貼り、バッテリーを携帯して、日常生活を送りながら治療します。長時間電場をかけなければなりません、治療により生存期間を延ばすことができます。治療適応などについては脳神経外科外来までご相談ください。



1. Stupp R, et al. JAMA. 2015. 314: 2535-2543.



(写真：ノボキユア社より提供)

【連載 no.21】緩和ケアあんしん手帳

緩和ケア病棟 師長 江口 由紀

2020年8月3日より、緩和ケア外来を受診された方々に対して、「緩和ケアあんしん手帳」を交付しております。この手帳は、使い慣れている患者様自身のお薬手帳を活用することで、これまでの治療歴やこれからの過ごし方、希望等、地域連携パスやACP(人生会議)としての機能を兼ね備えます。また、緩和ケア病棟をご利用いただくための目印にもなります。患者様たちだけでなく、地域の在宅支援の皆様とシームレスな連携を図れるためのツールにもなります。この手帳は、当院のホームページから印刷できます。

https://tachibana-med.or.jp/wp-content/uploads/Kanwa_Anshintecho_about.pdf

人の希望は随時変化します。在宅支援の皆様には患者様たちと定期的に想いを確認し、更新していただければ幸いです。

3枚のシールでご自宅でのあんしんを守ります。

- 1枚目：緩和ケアあんしん手帳の目印シール
お薬手帳の表紙に貼ることで、緩和ケア病棟を必要時にご利用頂くアトが出来ます。
- 2枚目：連携パスシール
これまでの治療と、現在のサポート体制を共有しカラダと生活のあんしんを守ります。
- 3枚目：人生会議シール
これからの過ごし方やご希望をお聞かせ頂き本人の大切にしたいことを守ります。

東住吉森本病院

安心して過ごして頂くために

緩和ケアあんしん手帳

緩和ケア
あんしん手帳

緩和ケア外来受診時・緩和ケア病棟ご入院時は、必ず『お薬手帳』をご持参ください。お薬手帳が緩和ケアあんしん手帳になります。

これまでの治療や想いを共有し
これからの希望を一緒に支えます。

※緩和ケア病棟をご利用頂くための目印にもなります。

ポイント 1

お薬手帳で

使い慣れたお薬手帳を活用します。お薬手帳がない方は新たに発行します。



ポイント 2

あなたの希望を

これまでの治療やこれからの過ごし方、ご希望をお聞かせください。



ポイント 3

チームでつなぐ

病院だけでなく、ご自宅の医療と介護のチームで支えます。



新型コロナウイルス感染症の国内感染者が報告されてから半年が過ぎました。大阪府においても医療施設のクラスター発生など緊張した状況が続いています。今回は冬季に流行するインフルエンザと新型コロナウイルス感染症の感染対策をご紹介します。

〈新型コロナウイルス感染症とインフルエンザ〉

	新型コロナウイルス感染	インフルエンザ
症状の有無	発熱に加え、味覚障害や嗅覚障害を伴うことがある。	しばしば高熱を呈する。
潜伏期間	1～14日間（平均 5.6 日）	1～2 日
ウイルス排泄期間	10 日以内	5～10 日（多くは 5～6 日）
ウイルス排泄のピーク	発病 1 日前	発病後 2.3 日後
ワクチンの有無	現時点で有効なワクチンは無し	使用可能

■同時流行への備え

- 1) 受診の体制整備
発熱患者の来院が増えることで交差感染のリスクが高まることが予想されます。空間分離や時間分離などの方法を活用しましょう。
空間分離：発熱患者の診察場所、待合場所、担当者を固定し他患者との交差を減らす。
時間分離：発熱患者の受診時間を固定し、他患者との交差を減らす。
- 2) 検査の考え方
症状から新型コロナウイルス感染症とインフルエンザを見分けることは難しく、できるかぎり両方の検査を行うことを推奨します。
- 3) インフルエンザワクチンの接種の推進
今シーズンのインフルエンザワクチンは約 6300 万人分の供給が見込まれています。特に 65 歳以上、医療者、子供、妊婦、基礎疾患がある方は接種を推奨いたします。
- 4) 感染を防止する体制の確保
感染の伝播を防止するため、手指衛生の励行や個人防護具の適正な使用と管理、環境清掃の頻度を増やすなど、標準予防策を実施しましょう。
- 5) 職員の健康管理
医療職員のワクチンの接種はもちろん、毎日の健康管理を行い体調不良のある場合は就業を控えましょう。

【連載 no.05】 地域医療連携の窓

今年度のコロナ禍の情勢では今まで通りの集合した研修会の開催が出来ず、連携医療機関の皆様と顔の見える連携が難しい状況にあります。そのためリモート形式での研修会を開催すべく、オンライン・システムを使用したWEB配信を開催いたしております。

9月・10月に地域医療・介護連携推進研修会を開催し近隣地区の皆様のみならず、多くの方々にご参加いただき地域の医療と介護の連携の一助となれたと自負しております。

WEB配信での研修会では、これまで時間や場所の都合で参加が難しかった方も気軽に参加することができることや

会場までの移動時間や交通費がかからない。研修会后、オンデマンド配信をするため見逃した箇所や復習したい箇所を見返すことができる等、新しい研修会の開催によるメリットも多くありました。

次回は11月20日に第3回地域医療・介護連携推進研修会の開催を予定しております。皆様のご参加お待ちしております。（別紙にてご案内を送付いたします。）



リモート研修会 [Live 中継の様子]

【第一回 東住吉薬物治療地域連携研究会 開催】

2020年9月19日（土）平野区画整理記念会館にて、東住吉区薬剤師会のご協力のもと研究会を開催。東住吉区薬剤師会から34施設34名、当院から6名の薬剤師が参加しました。本会は保険薬局と当院が薬物治療のシームレスな連携をはかる目的で発足しました。大テーマは「がん化学療法と副作用」で、プログラムは右記の通りです。



東住吉区薬剤師会
石田琢磨会長



薬剤科長
野村剛久



講師
黒沢秀夫

- ①抗がん剤使用時の皮膚障害に対する外用剤の使用方法（実習形式）
 - ②講演「がん化学療法と副作用マネジメント～聴取と説明のポイント～」
- 講師 東住吉森本病院 薬剤科主任 黒沢秀夫（日病薬がん薬物療法認定薬剤師）

質疑応答では活発な意見交換がされ、閉会の挨拶では東住吉区薬剤師会石田琢磨会長より「薬剤師同士の業務を理解する場を活用して地域で患者を守っていききたい」との談を頂きました。地域で質の高い薬物治療に取り組むための強い関心を伺う事ができた有意義な会でした。（薬剤科 野村剛久）



実習（外用剤の使用方法）



講演会風景

【医療安全管理者責任者のご挨拶】

8月より医療安全管理室配属となりました石津です。

医療安全管理室では安全で安心な質のよい医療を提供するために、インシデントレポートの分析、業務改善、職員の皆さんへの安全研修を行っています。

医療の現場では様々な「予想出来ないこと」が起こります。アクシデント事象の再発防止や重大な事故防止のためには、日々のインシデントレポートが重要です。インシデントレポートから得たデータを元に、改善点や再発防止策を、現場の皆様の声を聞きながら活動していきますのでよろしくおねがいします。



医療安全管理室長 石津
出身地：佐賀県
趣味：旅行 食べ歩き
ピアノ 映画鑑賞 韓国ドラマ

■ 病院理念 ■

1. 患者さんの立場に立った、対話のある医療を提供するために努力します。
2. 地域医療施設との連携を深め、地域医療に貢献するために努力します。
3. より良い患者サービスをするために、働きがいのある職場環境の改善・維持に努めます。

■ 基本方針 ■

1. 「患者参加型」の安全で質の高い医療を提供します。
2. 地域完結型の医療サービスを提供します。
3. 地域の予防医療の啓蒙に貢献します。
4. 自己実現が出来る職場環境の確保を目指します。

■ 患者さんの権利 ■

1. 個人の尊厳の保持
2. 良質な医療を平等に受ける権利
3. 十分な説明を受ける権利
4. 検査・治療を自ら決定する権利
5. 医療について知る権利
6. プライバシーの保護
7. セカンドオピニオンを受ける権利

東住吉森本病院 地域医療連携センター

診察・検査・入院のご依頼、その他お問い合わせ
(地域医療機関・施設さま専用)

メールアドレス：m_chiiki@tachibana-med.or.jp

電話：0120-65-0343 FAX：0120-10-5260

【受付時間】 平日9：00～20：00

土曜日9：00～17：00

地域医療連携センター長 坂上 祐司